

令和6年12月3日

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

代表取締役社長 野崎 秀則

共生社会の実現を目指し大館市民等を対象に 自動運転移動サービスの実証実験を実施しました

株式会社オリエンタルコンサルタンツ(所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則)が参画する大館版自動運転移動サービス推進協議会（事務局：秋田県大館市）は、秋田県大館市の市街地エリアにおいて自動運転移動サービス実証実験を2024年11月に実施しました。

大館市は、「先導的共生社会ホストタウン」として、全ての人が社会参加しやすい共生社会の実現を目指しています。そこで、自動運転の導入および実証実験中のAI オンデマンド交通との連携等を通じて、外出機会を創出し移動総量を増加させることにより、移動格差の緩和と幸福度を向上させ、市民がより豊かな生活を送ることができる社会の実現を目指しています。

今回の自動運転移動サービスの実証実験は、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）」、「自動運転実証調査事業と連携した路車協調システム実証実験」の採択を受け実施したものです。本実証実験は、交通再編に伴う自動運転移動サービス導入を見据え、地域住民の社会受容性の向上とともに、持続可能な運行に向けた共創事業によるビジネスモデルの構築を目的に実施しました。実証実験は、大館市市街地のJR大館駅、商業施設、総合病院を循環する約5.5kmのルートで11月16日から3日間実施し、満席近くの237人の方に参加いただきました。

当社は、交通計画を担当するコンサルタントの立場で「大館版自動運転移動サービス推進協議会」に委員として参画しています。本実証実験においては、自動運転移動サービスの解説、公共交通やAI オンデマンド交通の利用促進に関するパネル展示を行い、自動運転移動サービスの受容性向上と地域の移動サービスに対する期待感の醸成に貢献しました。

今後も、当社は地域の移動課題の解消を目指して、大館市や地域関係者との共創により、多様な移動サービスの有機的な組合せと持続可能な仕組みづくりに取り組んでいきます。

【実証実験の目的】

大館市における自動運転移動サービスの実証実験は、2019年（秋田犬の里）、2023年（比内エリア）に続いて今回で3度目の実施となりました。本年度は市街地において、昨年度より大型かつ最高時速35km/hで走行可能な小型EVバス（車両：Minibus）を活用して実施し、昨年度の課題であった走行速度の向上と、雨天時の信号灯色判断による自動走行割合の向上を目指しました。

【実証実験の概要】

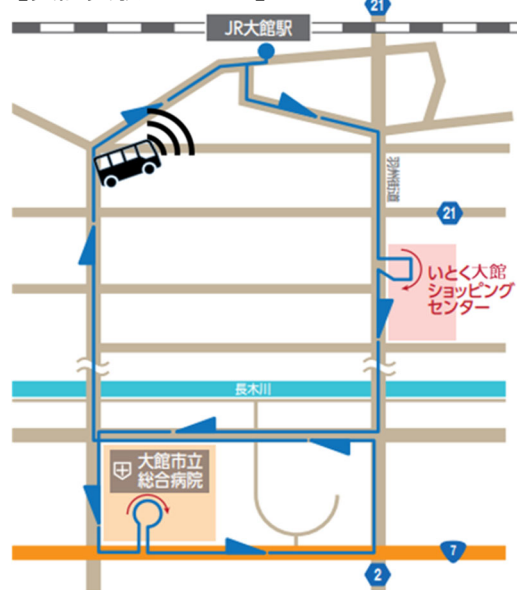
- ・運行期間：2024年11月16日(土)～11月18日(月)
- ・運行頻度：5便/日または6便/日
- ・運行ルート：JR大館駅、いとか大館ショッピングセンター、大館市立総合病院を經由しJR大館駅に戻る約5.5kmの循環ルート

詳細はこちらよりご確認ください。

<https://www.city.odate.lg.jp/city/soshiki/toshiseibi/p878>

(秋田県大館市ホームページ)

【実証実験のルート】

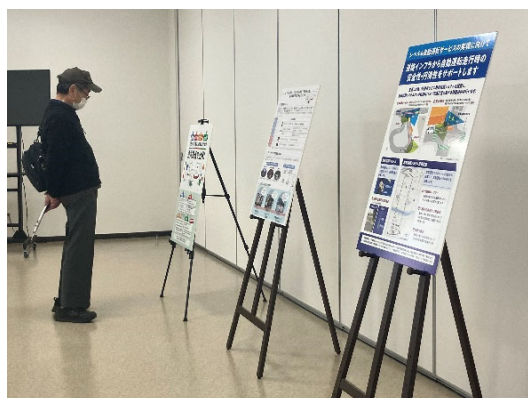


【実証実験の様子】

車両:Minibus(試乗者定員 12 名) 自動運転走行時最高速度 35km/h



実証実験に参加した市民の方の様子 (左：パネル展示、右：大館駅での自動運転バスへの乗降)



＜本資料に関するお問い合わせ先＞
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011
URL:<https://www.oriconsul.com/>
統括本部 伊藤・丸山・門司